

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：32633

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23660022

研究課題名(和文) タンザニアでの持続的な若手助産研究者教育課程の開発と評価

研究課題名(英文) Sustainable development of novice researchers program which will contribute evidence based midwifery in Tanzania

研究代表者

堀内 成子 (HORIUCHI, Shigeko)

聖路加国際大学・看護学部・教授

研究者番号：70157056

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：タンザニアの母子保健改善のためにエビデンスに基づく助産に貢献できる人材、持続的な助産若手研究者教育課程の開発が目的である。初年度は、ムヒンビリ大学との協働でカリキュラム編成を行った。二年目は、タンザニア助産師に「女性を中心としたケアによる人間らしい出産」セミナーを開催し、参加者の変化を調査した。104名の参加者は「女性を中心としたケア」を理解し、の認識は変化した。セミナーは、参加者に患者ケアを改善できることを動機つけた。三年目は、タンザニアでの高等教育への期待について16名に面接調査を行った。その結果、高等教育へのアクセスに多くの障壁があっても、母子保健向上のための学習への希求が認められた。

研究成果の概要(英文)：This study was focused on sustainable development of novice researchers who will contribute evidence based midwifery for the promotion of maternal child health in Tanzania. In the first year we developed the curriculum of new midwifery master's program, which had been developed collaboratively, was accepted by the Muhimbili university. In the second year we conducted a survey to evaluate midwives' perceptions of the general concept of 'humanized Childbirth based on the women-centered care'. Completing the entire program were 104 participants. Participants understood of the concept and perceptions had changed. The seminar motivated them to improve care for their patients. The third year we interviewed midwives to describe their expectations for professional development. Sixteen midwives participated in this interviews. The results showed that although they experienced a number of barriers to access higher education, their desire to learn to be a good help of mothers and infants.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：カリキュラム タンザニア 助産教育 大学院教育

1. 研究開始当初の背景

世界保健機構 (World Health Organization [WHO]) の 1989 年総会にて、「health for all」の目標達成のためのストラテジーとして、研究、教育、政治的活動に貢献できる看護・助産専門職の強化の勧告が出された (WHO, 1989)。

2000 年の「ミレニアム開発目標」5 として掲げられた「妊産婦の健康の安全」では、2015 年までに妊産婦の死亡率を 1990 年の水準の 4 分の 1 に削減することを目標としているが、サハラ砂漠以南の地域で、妊産婦死亡率は依然として非常に高く、改善は滞っている状況である。

タンザニアの妊産婦死亡率は、一番古い 1996 年のデータで出生 10 万件中 529、2010 年のデータで 454 であり、2015 年までに 4 分の 1 へ削減できる見通しは立っていない (National Bureau of Statistics Tanzania and ORC Macro, 2005)。

タンザニア厚生省リプロダクティブ & チャイルドヘルスサービス長官のカトリーヌ・サンガ博士は、限られた資源で母子の健康指標の改善に取り組む為に、医療者の教育を充実させ、保健システムに貢献できる人材の育成を促進する方針を打ち出した (WHO, 2010)。しかしながら、タンザニアの助産教育は実践家教育に限られており、大学院へのカリキュラム編成の経験のなさや教育者不足により、大学院における研究者教育課程は存在していない。

2. 研究の目的

本研究では、タンザニアに東アフリカ初となる助産学専門の修士課程を設立することによって、若手研究員を育成し、持続可能性の高い母子保健の改善に貢献する。

妊産婦死亡率が非常に高いタンザニアでは、科学的知見を基に研究、教育、政治活動に携わることができる若手助産研究者の育成が急務である。日本では、助産高等教育で求められる Evidence-based Practice と Women-centered Care に基づいた研究や教育が先進している。

本研究は、助産研究者教育モデルのアフリカへの輸出とその評価が目的であり、先行研究のない新しい試みである。タンザニア国内で大学院教育が可能になることで、英語圏への頭脳流出を阻止し、タンザニア人の助産師が自国の保健問題改善に向け活動できる自立発展的な能力を育成する。

3. 研究の方法

アクションリサーチ (企画段階から現地の教員と話し合いを持ち、カリキュラムを立案する。研究・評価方法は研究の進行によって適宜調整する。)

参加者：聖路加看護大学教員・研究員、ムヒンビリ大学教員
対象：学士号を有するタンザニアの助産師

資格保持者で、修士学への進学を希望する者 6-10 人。学生はフルタイムでの強いコミットメントと英語論文を作成するだけの学術的能力を要求される。教員のキャパシティと 1、2 人の脱落者を見込んだ対象者を得る。

4. 研究成果

平成 23 年度は、ムヒンビリ健康科学大学の研究者らとの協働で、カリキュラム編成を行った。最初に、ムヒンビリ健康科学大学セバルダ・レシャバリ氏と話し合い、カリキュラム編成、実行、評価の基となるアウトカムモデルを用い、院生・教育者・環境において、新カリキュラムを通して目指すアウトカムを明確にした。

主に、この課程の院生として、研究のエビデンスの評価と臨床への還元、高度助産実践、教育、マネジメントができる人材を育成することとし、そのためには、Women-centered Care (女性中心のケア) と Evidence-based Practice (エビデンスに基づいた実践) の概念に基づいて新たな成人学習の方法を用いて教育を行い、環境としてタンザニアの助産教育に関わる機関や専門家がそれを承認することとした。

それを基に、聖路加看護大学の助産修士カリキュラムと照らし合わせ、応用できる内容の吟味、またタンザニアの母子保健ニーズに合わせた内容への変更を話し合い、カリキュラム原案を編成した。原案は国際的な看護高等教育のエキスパートであるウィリアム・ホルツマー博士らのレビューを受け修正され、更にムヒンビリ健康科学大学助産教員間で話し合われて修正された後、タンザニア国内の助産教育に関わるステークホルダーの間で話し合われた。ステークホルダーの意見を反映したカリキュラム最終案をまとめた。

平成 24 年度は、タンザニアの臨床助産師や看護大学の教員、行政担当者等に助産教育および研究の必要性を理解してもらう活動を行った。タンザニアで開催した「Humanized Childbirth Seminar」では、123 名の助産師が集まり熱い議論が行われた。

人材不足のうえ、多産で多忙なタンザニアの臨床助産師は、女性たちから時に「助産師は冷たい、厳しい」という評価をうけているという内省の発言があった。女性を守るために、自分たちの意識、環境を変えていくこと、そのためにも助産師が研究を学び、政策にも影響を与えていくことが話し合われ、タンザニアにおける助産師リーダー育成の土壌が出来上がってきていた。

平成 25 年度は、大学院進学志願者からの学ぶことへのニーズを聞き取る調査を行った。個人面接とグループ面接を通じて 16 名の大学院での教育を希望する志願予定者の声を聞いた。

その結果、＜タンザニア母子保健状況の改善希求＞、＜知識は力なりという思い＞、＜学びに終わりは無い＞、＜高等教育への障壁＞などが、主な内容として語られた。多くの助産師が、継続教育や高等教育に関心を寄せ、学びへの大きなニーズを持っていた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 8 件)

Shimpuku, Y., Horiuchi, S., Matsutani, M., Eto, H., Nagamatsu, Y., Oguro, M., Iida, M., Yaju, Y.: Partnership Model of Global Collaboration: The Shared Value of Humanized Childbirth in Tanzania, 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2014年02月20日～2014年02月21日、Manila, Philippines

竹内翔子、下田佳奈、高畑香織、長松康子、江藤宏美、新福洋子、堀内成子: タンザニア「人間的な出産」セミナーにおける助産師の認識の変容、日本ヒューマン・ケア心理学会 学術集会第15回大会、2013年07月06日～2013年07月07日、東京

若井翔子、新福洋子、長松康子、八重ゆかり、江藤宏美、毛利多恵子、堀内成子: タンザニア「人間的な出産」セミナーによる“女性を中心とするケア”の認識、第27回日本助産学会学術集会、2013年05月01日～2013年05月02日、金沢
堀内成子: 70億人時代の国際保健医療チームの人材とその育成: リプロダクティブヘルス、第28回日本国際保健医療学会東日本地方会(招待講演)、2013年03月23日、東京

Shimpuku, Y., Horiuchi, S.: The Concept of “Humanization of Childbirth with Women-Centered Care(HC/WCC): Japanese Nurse-Midwives Application of the Concept to Global Health Research, Education, and Practice”, The 10th Annual National Conference, Asian American Pacific Islander Nurses Association, “Global Health: Nursing in the Future-Research, Education, and Practice”, 2013年03月19日～2013年03月20日、Honolulu, Hawaii

Shimpuku, Y., Horiuchi, S., Matsutani, M., Eto, H., Nagamatsu, Y., Oguro, M., Iida, M., Yaju, Y., Mori, T.: Process report of the collaborative project to develop the Master’s program in Midwifery in Tanzania: The seminar of “Humanized Childbirth, St. Luke’s Academia, 2013

年02月08日～2013年02月09日、東京
Shimpuku, Y., Horiuchi, S., Leshabari, S., Malima, K., Matsutani, M., Eto, H., Nagamatsu, Y., Oguro, M., Yaju, Y.: Starting a Midwifery Master’s program in Tanzania: Lesson learned from the collaborative project between Tanzania and Japan, The East, Central, and Southern African College of Nursing the 10th Scientific Conference, 2012年09月05日～2012年09月07日、Port Louis, Mauritius
Shimpuku, Y., Horiuchi, S., Leshabari, S., Malima, K., Matsutani, M., Eto, H., Nagamatsu, Y., Oguro, M., Yaju, Y.: Process Report of a Collaborative Project between Tanzania and Japan to Develop a Master’s Program in Midwifery, The 9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centers for Nursing and Midwifery, 2012年05月30日～2012年06月01日、神戸

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀内 成子 (HORIUCHI, Shigeko)
聖路加国際大学・看護学部・教授
研究者番号: 70157056

(2) 研究分担者

松谷 美和子 (MATSUTANI, Miwako)
聖路加国際大学・看護学部・教授
研究者番号: 60103587

江藤 宏美 (ETO, Hiromi)
長崎大学・医歯薬学総合研究科 (保健学
科)・教授
研究番号：10213555

長松 康子 (NAGAMTSU, Yasuko)
聖路加国際大学・看護学部・准教授
研究者番号：80286707

小黒 道子 (OGURO, Michiko)
聖路加国際大学・看護学部・助教
研究者番号：90512468

新福 洋子 (SHIMPUKU, Yoko)
聖路加国際大学・看護学部・助教
研究者番号：00633421

(3)連携研究者

()

研究者番号：